

友の会会報

No. 3

平成13年

2001

10

発行／江戸東京博物館友の会事務局 130-0015東京都墨田区横網1-4-1 Tel. 03-3626-9910

【企画展】世界遺産ポンペイ展 —古代ローマの輝き—

2000年前、ポンペイは豊かな都市だった

～大好評！ 友の会特別内覧会で講演・展示解説～

*講演要録を4ページに掲載しました。

8月6日(月)、友の会会員を対象にした「世界遺産ポンペイ展—古代ローマの輝き—」特別内覧会が開かれました。

一般公開に先立っての嬉しい特典であり、本展の監修者で、日本におけるポンペイ研究の第一人者でもある青柳正規東京大学教授の講演も聞けるとあって大好評。会場は300人を越す参加者(日伊協会会員を含む)で埋まりました。

内覧会は、午後6時半から1階ホールにおいて、まず竹内江戸東京博物館館長のあいさつで始まり、次いで青柳教授によるポンペイ史を中心にした講演が行われました。

これまで「ポンペイ」といえば、その悲劇のみが大きく取り上げられてきましたが、今回の講演は2000年も昔(日本ではまだ弥生時代です)のポンペイ市民の生活にスポットが当てられ、その豊かさの裏づけとなった古代ローマの歴史と、ポンペイの地理的・経済的な条件などが分かりやすく語られて、新鮮な感銘を与えました。

つづいて企画展示室に移り、引きつづき青柳教授によって見どころの解説が行われました。展示内容は、約360点にも及ぶ多彩なもので、ポン



青柳教授から展示解説を受ける

ペイ考古学監督局がイタリア内外の研究者の成果を集約した画期的なものとなっています。

なかでも、精緻な象嵌細工がほどこされた美術品や、当時の先端技術の粋といえる医学、計測などの諸道具や部品、よく整備された水道や舗装道路など公共施設の数々には、驚かされます。

これらの遺物から想像されるポンペイ市民の暮らしは、一方で奴隷制度によって支えられていたとはいえ、豊かで快適なものであったでしょう。

会場で会員の方に感想を伺いましたところ、「ローマ文明の奥行きを肌で感じさせる」「江戸東京の世界を越えたすばらしい企画だ」「もう一度、ゆっくり時間をとって見てみたい」など、友の会のスタートを飾って価値ある夕べでした。

【写真(4頁も): 広報部会・佐藤幸彦】



の・い・ら・い・と

- 秋の爽やかな季節になりました。行楽に、学びに好機です。
- 友の会を推進する役員のプロフィールをご紹介します。
- セミナーなどの講演要旨
 - ・「ポンペイ展」内覧会講演
 - ・セミナー「大山詣での今昔」
- 会員のページ…投稿紹介
 - ・「日本刀の楽しみ」佐藤幸彦
 - ・「イラスト」野坂絃子
- 《事業部会だより》
 - 今後の企画案内です。皆さんの参加をお待ちしています。
 - ・11/15 第3回友の会セミナー
 - ・12/2 「渋沢史料館」見学会
- 会員優待のお知らせ——
 - ・11/19「東京建築展」内覧会
- 「会報」の愛称募集！
 - 素敵な、親しまれる名前を付けてください。
- この会報は、皆さんと一緒に創るコミュニケーション誌です。ご意見、ご要望、投稿などをお寄せください。

役・員・紹・介

会員の皆さん、よろしくお願いします。

会長

山本 市郎(やまもと・いちろう)

江戸博ガイドボランティア(英語・日本語)を務めて早や4年。毎日を愉しませていただき、充実した日々をエンジョイしていますが、このたび友の会の発会とともに大役を務めさせていただくことになりました。

これにどこまで貢献できるか、確たる自信はありませんが、有能な運営グループとともに最大の尽力をして、この新規プロジェクトが成功し、期待通りの成果が上がりますよう、懸命に挑戦したいと考え



ます。

私の経験から江戸博常設展示の英語・日本語の解説は、この会でのお役目より多少うまくやれるかな?とも考えます。もし会員各位のなかでご希望があれば、時間の許す限り都合をつけますので、お声をかけてください。展示解説のお手伝いをいたします。

これも皆さまに対して私のできることのひとつです。

副会長兼事務局長(広報部会担当)

佐山 彪(さやま・たけし)

先々代のとき、現在地(目黒区)に牛込から移り住んだ、東京生まれの東京育ちです。私の財産を目録にしてみました。

◎働く(この道一筋何?年)

最近是不人気の金融機関に40年ほど。すべてを忘れ、現在はボランティア(江戸博ガイドと友の会)一筋。

◎体力(まだ若い者には負けません)

学生時代からの登山歴で、自称大ベテラン。今年も約2ヵ月ヒマラヤへ出かける予定。

◎技(私はこんなことができる)

ヴィオラ・ダ・ガンバ【写真】という古楽器を弾きます。安土桃山時代に日本に伝来し、キリシタン弾圧でハードは失われましたが、ソフトが何らかの形で残っているのではないかと、知りたい研究



テーマです。

◎物(私の宝物)

父から贈られた先祖伝来の脇差(備前長船)とコレクションしている水滴。

◎情報(このことについてはうるさい)

木造船(模型)作り。ヨーロッパではキングスホビーといわれます。

◎遊び(こんなことでストレス解消)

英国留学時代に覚えたフライフィッシング(フライも自分で作る)。日本でも愛好家が増えて、フィールドも多くなりました。

会計(総務部会担当)

川島 幸雄(かわしま・ゆきお)

東京に住んでほぼ40年。近くには石神井公園があります。生まれは静岡県の浜松市。6年前に長く携わってきた自動車産業を定年退職しました。

昨年末、江戸博に関係する知人から「もし時間があれば、友の会発足の準備

に参加してくれないか」と頼まれ、発起人応募を気軽に引き受け、その縁で役員を務めることになりました。

私は長い東京生活でも、江戸の文化や歴史にほとんど触れてきませんでした。そこで、友の会の発足を契機に江戸東京を白紙から理解したいと思っていま



す。とくに浮世絵や江戸工芸には心惹かれものがあります。

趣味は旅先の思い出を描く(水彩)こと。そして目下パソコンの面白さにハマっています。

会社での体験(企画・運営管理・経理など)が、会の運営に少しでも役立てばと願っています。幸いにも健康に恵まれているので、会の活動に参加して大いに人生を楽しみたいと思っています。

監事(事業部会担当)

山下 卓(やました・たかし)

生国は「みすず刈る信濃の国」長野県。すずは細竹の一種で、信濃の枕詞です。

浮世絵に興味を持っています。銀座の渡辺版画店のご主人に話を伺ったのが契機で、浮世絵研究家・吉田漱氏の

影響も大いに受けました。

入会の動機は、現在係わっているボランティアガイドの延長線上にあります。外国文学を学んでいたころ、自国の伝統文化を余りにも知らない自分に気づき、国際理解



教育に関わる中で、江戸博でさらに深めたいと考えました。

会への期待は、会員一人ひとりが文化を愛する気持ち(Love)をもって集まり散じる楽しい会でありたいと思います。

具体的には活気があり(Live)、皆が前向きで(Onward)、そして進んで参加し(Voluntary)、江戸東京の伝統文化を継承していく会であることを期待しています。



会計

佐藤 扶美子(さとう・ふみこ)

江戸博友の会には、会員中心の活動を通して、さまざまな分野で活躍している方と交流し、新しい発見ができるという

特色にひかれて入会しました。

私は歴史関係の博物館や展示を見に行くことが好きで、人間と環境との関わり合いに注目して見ると、学ん



だり、考えさせられることがあります。

興味があるのは、昔の人たちの生活です。人間がその営みのなかで考え出した智恵に驚かされます。経験が浅いのですが、友の会活動のお役に立てればと思っています。よろしく願いいたします。

監事

栗国 ゆう子(あわくに・ゆうこ)

「栗国」って名字珍しいでしょう？でも沖縄にはたくさんあります。ルーツをたどると、父方の祖父母が沖縄に先祖を

もっていて、戦争中、東京にやって来たのです。

私は学生時代には法律をかじり、1年間ほど江戸博で案内係をしていました。今は、将来の夢



(自分のお店を持つ)をかなえるため、経営コンサルタント会社で働いています。

友の会には、何かをつかっていく過程を体験したくて発起人から参加しました。まだ役立たずですが、どうぞよろしく願いいたします。

総務部会長

大谷 善四郎(おおたに・ぜんしろう)

江戸東京博物館から隅田川を越えた対岸の地が、享保年間からの我が家の住いです。

昭和ひと桁生まれの私は、若い時か

ら歴史が好きで、とくに江戸時代以降については庶民文化の下町に育った関係から非常に興味があり、いろいろな機会を通じて知識の吸収に努めてきました。



「友の会」という、博物館を核として組織的に勉強・活動できる場が設けられましたので、積極的に参加し、楽しみながら出来るだけお手伝いしたいと思っています。

事業部会長

山口 千恵子(やまぐち・ちえこ)

来春、齢60歳。思わず女性の平均寿命からの引き算。これからは自分の楽しい人生と考えています。

子供のころから好きだった近世の歴

史。当館北原先生の古文書講座で、先生のお人柄、古文書にすっかり魅了されてしまいました。分からなかったことが判読できたときの嬉しさは、何物にも代えら



れません。現在「寺子屋品川宿」で古文書の解説、充実した日々を過ごしています。

書店には江戸の本が多数あります。いま、この両国の地から江戸時代にも勝る何かが発信できれば、と微力ですが参画させていただきます。

広報部会長

大松 駿一(おおまつ・きいち)

この春、大きなプラバケツを買い、雨水を貯めておいて植木にやることにしました。驚いたのは、水の底によどむ汚れです。砂と油煙とタイヤの屑と思われる

粉塵とで、その臭いこと。東京の空や水はこんなにも変わってしまったのです。

趣味で神田上水と千川上水の研究をしています。歴史と



水を学ぶことは、環境を考えることにも通じると実感しています。

最後に、広報の活動は会員の皆さまのご支援なくしては成り立ちません。部会員一同がんばりますので、どうぞお力添えのほどお願いいたします。

西 暦79年8月24日昼前、ポンペイの人々は大地を揺るがす突然の爆発音を耳にしました。驚いて窓辺に駆け寄った人々の目に映ったのは、酒神バックスの山として崇めているヴェスヴィオ山から上がる巨大な火柱でした。そして、すぐに大小の火山礫や火山灰が降り注ぎ始めました。

多くの市民たちはあわてて海岸に逃れ、からくも一命をとりとめました。なかには財産を守るために家族や使用人とともに、家にとどまった人もいました。火山灰は降りつづけて家々を埋め、火砕流が襲ってきました。こうしてポンペイの街と2千人近い市民が火山灰の下に埋められてしまいました。

それから長い年月が流れ、1948年になって再発見されたこの遺跡は、彼らの生活ぶりを知る貴重な史料として、いまでは世界中から年間230万人もの見学者を集めています。

*古代文明が融けあった肥沃地

さ て、ナポリ湾に面し、北にヴェスヴィオ山を望むポンペイは、サルノ川沿いのいくつかの集落が合体してつくられた村でした。もともとの住人は海運を生業とした人たち(ポンペオイ)で、これが地名の由来といわれています。

この辺り一帯はカンパニア地方と呼ばれますが、火山灰をもとにした土地は二毛作、三毛作ができるほど肥えていて、古くから人々を魅了していました。水はけがよく、夏は雨が少ないとあって、たとえばトマトは連作が可能で、ブドウや桃などの果物もひときわ甘いものができます。

紀元前7世紀の前半、この肥沃さ

に目をつけたギリシャ人とエトルリア人が進出して来ます。ポンペイはそれらの文化の影響も受け、やがて3キロにも及ぶ城壁をめぐる都市国家へと育っていきました。

前5世紀になると、山岳民族であるサムニウム人がやってきて、その支配下におかれました。彼らは平野の人からカンパニアと呼ばれていたため、それが地名として残ったわけです。

さらに時代が下ると、ローマ帝国の進出が始まります。カンパニアを制圧したローマは、さらに勢力範囲を広げていきますが、その過程でカルタゴとも3度にわたる戦いが行われていま

役兵に与え、さらに彼らを市の公職につかせて、ポンペイを完全な支配下に収めました。

*見どころは、高い生活レベル

ポ ンペイの人たちはその後、長い年月をかけて農地を買い戻していきました。同時に、市長や助役などの選挙に立候補できるほどの力を、次第に蓄えていったようです。そのバックにあったのが経済力です。ポンペイの野菜は美味で知られていましたし、ガル（魚醬）や石臼などもローマや近隣諸国から高い評価を得ていました。彼らが大きな利益

をもたらしたのです。当時のポンペイ市民は2500家族ほどと推測されますが、そのうちの10パーセントくらいは、かなり豊かな暮らしを営んでいたと考えられます。そうした富裕層の多くは農園主でしたが、彼らの家はフレ

スコ技法などを使った美しい壁画で飾られ、夢のあふれる場として表現されていました。

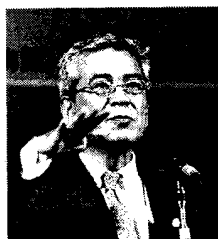
町は碁盤の目のように整備され、道は石を敷きつめて舗装されていました。水道も引かれていました。町の中央には大きなフォルム(広場)があり、そこは政治や宗教、商業の中心で、議会や神殿、公設市場、劇場、公共浴場などが建ち並んでいました。

こうした高度な文明をもった町が降灰に埋ってしまったわけで、それから19世紀に至るまで、時間が止まっていたのです。

かつてポンペイの遺跡を見た詩人ゲーテの言葉にこうあります。「これほどの悲劇が、これほど興味深く見られるところは他にはない」と。

【記録：広報部会・岡橋園子】

【企画展】世界遺産ポンペイ展内覧会 講演要録(2001.8.6)



都市国家ポンペイの歩みと文化

東京大学 青柳正規教授

す。いわゆるポエニ戦争です。

なかでも前3世紀の第二次ポエニ戦争では、カルタゴの英雄ハンニバルがアルプスを越え、イタリア各地を侵略しました。この戦いでは、カンパニアの諸都市がカルタゴ軍に寝返りましたが、ひとりポンペイはローマを裏切りませんでした。このため、ポンペイは強大なローマの庇護を受けることになり、大いに発展しました。とくに地の利を生かして、東方へレニズム世界の物産をイタリア各地に運び、その交易によって莫大な富を築きました。

ところが、前90年にサムニウム人の諸都市がローマに叛旗を翻したときは、ポンペイも反乱軍側についたために、ローマ軍に包囲され、ついに降伏に至ります。ローマ軍はポンペイの名門旧家の農地を没収して数千の退

第1回江戸東京博物館友の会セミナー(2001.7.27)

大山詣での今昔

江戸東京博物館 鈴木章生学芸員



参拝装束で語る鈴木学芸員

神奈川県丹沢山地の南東に位置する大山は、昔から信仰の山として知られてきました。標高1252メートル。にわか雨がよく降るので雨降山(あふりやま)、また阿夫利山とも呼ばれます。

開山は古く、天平勝宝7年(755)。東大寺の建立に尽力した名僧・良弁(ろうべん)が、山頂の石尊山大権現と山腹の雨降山大山寺を中心に、真言密教の修験道場を開いたことに始まります。

江戸時代になると、庶民信仰の高まりとともに関東一円から信者(大山講)を集め、富士講とならんで盛んになりました。現在は、山頂に阿夫利神社本社(石尊社)、山腹に下社と大山寺があります。

さて、この大山講には大きな転機が3回ありました。徳川家康による江戸開府と、明治維新、そして最近の高度経済成長期以降の変化です。

◆御師が登場は江戸初期

まず、家康ですが、慶長10年(1605)に大山寺の僧侶たちから来歴由緒を聞き取り、「不学不律の僧侶を下山せしめ」ました。つまり、僧と在家信者の混住をやめさせたのです。

当時、將軍家の悩みのタネは、朝廷と大名と宗教勢力でした。そこで、関東に勢力を張っていた大山を幕府の統制下に入れ、山内秩序の再編をはかったわけです。これによって、修験・妻帯僧は山腹に住むことになり、御師(おし)の成立につながります。

御師は、天保期には166軒を数えるまでになり、講を受け入れる重要な存在となって、信者拡大に貢献しました。

ピークは文化文政のころで、参詣人

のために多くの道しるべ(不動尊がついているパターンが多い)が作られ、その年代や奉納者の住所から、街道筋や信仰の動きなどが分かります。

たとえば、〈大山詣で〉の道には、伊勢原ルート(現在はケーブルカー設置)と蓑毛ルート(秦野側、明治以降に衰退)がありました。参詣を済ますと江ノ島や藤沢あたりで遊んで帰ったり、「片詣りはよくない」といって、富士山登拝を掛け持ちしたり、ということも多く行われたようです。こうしたことは、落語の「大山詣り」でも語られています。

◆講によって異なる信仰目的

明治になると、神仏分離令によって仏教から神道祭祀行事に改められます。石尊大権現は阿夫利神社となり、御師も「先導師」と改称されました。

当時の書上げ史料によりますと、檀家数は70万戸とされますから、形式は変わっても大変多くの信者で賑っていたことが分かります。

ところで、〈大山詣で〉と、ひと口にいますが、その信仰の内容は「講」の所在地によってかなり異なっています。

農村では「雨降山」ということから豊作や雨乞い、漁村では大山が「山見」(海上での位置確認)に重要だったので大漁や航海の安全を祈り、また横浜あたりでは死者の霊と会うために詣で、埼玉では帰路の遊びを男子15歳の通過儀礼としたり…というわけです。

江戸の庶民は、太刀(木刀)を奉納して邪を払ってもらい、前の人納めた太刀を持ち帰ったり、御神酒杯に御神酒か水を貰って帰り、家の神前に供えるという習俗もありました。

◆両国とも深い縁

参拝には、初山(7月27日～31日)、七日道(8月1日～7日)、間の山(同8日～12日)、盆山(同13日～15日)、仕舞山(同16日～17日)があります。なかでも、江戸庶民の決算期に当たる盆山は大変賑いました。借金取りから逃げるために登るとい人もいて、彼らはなげなしの金(カネ)を持って山に入り、宿坊でバクチに精を出すということもあったようです。

また、装束も富士講は白装束、大山は、ももひき(パッチ)に半纏の職人姿でした。そんなことから、富士講は宗教的な意味合いが強く、大山講は遊び半分が多いなどともいわれます。

大山と江戸・両国は密接な関係があります。参拝者は出かける前に、隅田川で水を浴びて心身を清める「水垢離(ごり)」をとったからです。真言を千回唱えるので「千垢離」ともいわれ、1000本のこよりを持って水に入り、1回唱えるごとに1本ずつ流していきました。

大山には昭和40年(1965)にケーブルカーが敷かれましたが、そのころから観光バスの団体客が増え、宿坊に泊らないで箱根や伊豆へ足をのばすケースが一般的になりました。

今でも、江戸火消しの「いろは四十八組」の流れをくむ人たちは、儀式的に〈大山詣で〉を行っています。それも「講」と地域コミュニティ(町内会など)との合体という形が多くなっています。

*

この後、谷中「れ組」の大山講を取材したスライド映写と解説がありました。
【記録:広報部会・大松駿一】

江戸友からざ

友の会会員のページです。
投稿作品などをご紹介します。

日本刀に興味を持つ若い人がふえて来たように見え、喜ばしく思っています。日本刀の魅力はどこにあるのでしょうか。私たちの祖先は日本刀を単なる武器とは思わず、霊力のある存在として大切にしてきました。

源氏に代々伝わった髭切(ひげきり)、膝丸(ひざまる)の太刀、平家に伝わったという小鳥丸(こがらすま)などの伝説を聞いた人も多いと思います。武士は、平安時代から、鎌倉、南北朝(吉野)、室町時代と、戦場には常に日本刀を携行しましたが、それは最後に身を守る武器として佩用(はいよう)したのです。

戦場での主要な武器、すなわち消耗品としての武器は、馬上では第一に弓矢であり、徒歩の武士では薙刀(なぎなた)でした。室町中期以後は、武士の表道具は槍になりました。「弓矢取る身」とか「槍一筋の家柄」は武士の誇りだったのです。鉄砲は伝来してから急速に普及しましたが、使うのは足軽といわれた下級の武士でした。

最後に身を守る武器として大切にされた日本刀は、武士の間で恩賞や贈答に用いられるようになり、その交換価値を定める必要が生じまし

た。室町時代から鑑定のプロが権威をもって、刀工の格付けや、個々の刀の評価をするようになりました。そのような価値観を連綿と引き継いで、いま我々は日本刀を鑑賞しているのです。

人によって、美しい、切れそうだ、歴史がある、新撰組の小説が面白かった——など、いろいろな興味の

日本刀の楽しみ

佐藤 幸彦(会員)

持ち方があって結構です。しかし、一歩進んで日本刀鑑賞の感動を皆と共有したいと思う人は、日本人が五百年間連綿と築き上げて来た価値観を、勉強によって身につけることが大切です。

それには色々な本を読んで、刀工の系譜、有名刀工の時代、国、格付けなどを覚え、実物を見て「先人が名刀と考えたのは、このような作品なのか」と味わう必要があります。

展示などで刀を見るときは大抵ガ

ラス越しです。刀を多く見た人は、ガラス越しでもある程度鑑賞できますが、何といたっても自分で手に持って、自然光、電灯光、蛍光灯などいろいろな種類の光で見ないと、刀は判らないものです。それが初心者にも可能な場として、東京・埼玉・千葉などに同好の士が集まる刀剣研究会が、いくつかあります。

刃物を扱うので、会によって条件はあると思いますが、一応誰でも入会できるはずで、積極的に門を叩いてください。

そのような場では、伝統的な勉強法として、銘を隠した刀を見てその作者を当てる、鑑定ゲームをします。しかし、このような研究会の本質は、先人が連綿と築き上げて完成した価値観を身につけるべき場なのです。

初心のうちにはゲームで点を取ることは難しいのですが、本を読み、実物を見てあれこれ話を聞き、同好の友も得られる楽しい場もあります。

日本刀に興味を持った次の段階で、刀剣研究会に参加することをお勧めします。各会の連絡先などは、刀剣店などに相談すれば教えてもらえます。



◆イラスト/野坂 紘子(会員) 浮世絵(左)歌麿『針仕事』、(中)清長『湯殿』、(右)清長『隅田の渡し』—から

ますます充実する友の会特別企画。友の会会員だけへの特典です。
多数の方のご参加をお待ちしています。

事業部会 だより

友の会セミナー

第3回「江戸の見世物を楽しむ」 講師：川添 裕さん(見世物研究家)

開催日：11月15日(木) 18:00～19:30 / 申込締切：11月1日(木)必着

- ・会場：江戸東京博物館・1階会議室
- ・参加費：200円(当日受付払い)
- ・定員：100名(会員本人に限る)

現代では見世物というと、どこか「うらさびしい」感じがつきまといがちですが、近世後期には両国や浅草などで盛んに行われ、庶民にもっともよく親しまれた代表的な娯楽でした。

華麗にしてスピード感あふれる軽業師・早竹虎吉の曲芸、魚の干物で三尊仏をつくった愉快な「とんだ霊宝」、一目見るだけで七福が得られるといわれたゾウの見世物など、その種類は

豊富でなかなか質も高いものでした。そんな江戸の見世物の世界に近づいてみましょう。

・講師略歴：かわぞえ・ゆう

1956年横浜生まれ。見世物文化研究所代表。跡見学園女子大学、皇學館大学、各兼任講師。専門は芸能史、日本文化史。著書『江戸の見世物』(岩波新書、2000)ほか。

●友の会セミナー・スケジュール

回	開催日	講師
第4回	平成14年(2002)1月25日(金)	岩城紀子(江戸東京博物館学芸員)
第5回	平成14年(2002)2月2日(土)	藤實久美子(学習院大学史料館助手)
第6回	平成14年(2002)2月16日(土)	小澤 弘(江戸東京博物館教授)

見学会

「渋沢史料館」(王子・飛鳥山) 講師：五十嵐卓さん(同館学芸員)

開催日：12月2日(日) 12:30～16:00 / 申込締切：11月16日(金)必着

- ・定員：60名(会員本人に限る)
- ・参加費：500円(入館料を含む、当日払い)

江戸以来の桜の名所として名高い飛鳥山の一角に、明治時代の実業家・渋沢栄一の事績を記念する博物館「渋沢史料館」があります。

今回、同館のご協力のもと、友の会会員を対象とした見学会を開催します。

当日は、同館学芸員で当友の会会員の五十嵐卓さんに渋沢栄一の事績と展示の見どころについてご講演をいただき、展示室と庭園を見学します。

イベント 申込方法

▶ 申込方法:

- 往復ハガキに《開催日「テーマ名」応募》と、
- ①会員番号②氏名③〒住所④電話番号
- ⑤会報、友の会の感想・要望、を明記。
- ・各イベントごと、会員本人に限り、1人1通。

・「返信用の〒あて先」も必ず記入ください。

- ▶ 申込先：130-0015東京都墨田区横網1-4-1
江戸東京博物館友の会事務局あて
- ▶ 締め切り：各イベント案内参照(必着)
申込み多数の場合は抽選

会員優待のお知らせ

友の会会員の皆さんにお贈りする、会員ならではの特別優待サービスです。江戸東京博物館で、企画展やイベント観賞、ショッピングをお楽しみください——。

【企画展】 世界遺産ポンペイ展 —古代ローマの輝き—

好評開催中！ 10月28日(日)まで

・会員観覧料:	大人	650円
	小中高生	320円
	65歳以上	350円
・会員の同行者:	大人	1,100円
	小中高生	550円
	65歳以上	600円

- ・企画展示室内の物販コーナーで、図録やポンペイ展オリジナルグッズが10%割引です。
- ・図録は、ミュージアムショップでも10%割引になります。
- ・会員証をご提示ください。

【企画展】 東京建築展 —住まいの軌跡／都市の奇跡—

開催期間:平成13年11月20日(火)～平成14年1月20日(日)

友の会特別内覧会(11月19日)申し込み受付中!

会員観覧料: 大人450円、小中高生220円
 会員の同行者: 大人720円、小中高生360円
 *65歳以上の方は無料。

■友の会会員特別内覧会

- ・開催日:平成13年11月19日(月)
18:00～19:30(受付開始17:00)
- ・会場:江戸東京博物館1階ホール(米山勇・当館)

専門研究員の解説)／企画展示室(自由内覧)

- ・定員:300名
- ・参加費:500円(当日受付で支払い)
- ・申込方法:往復はがきに《東京建築展内覧会応募》と①会員番号②お名前③〒ご住所④電話番号を明記、返信〒あて先も記入。
- ・申込先:江戸東京博物館友の会事務局あて
- ・締切:10月20日(土)必着、申込多数は抽選

会報の愛称を募集します。

皆さんと友の会をつなぐこの会報に、親しみやすい愛称(タイトル名称)を付けてください。

下記により素敵な名前をお寄せください。

- ◆応募方法:ハガキに「会報愛称応募」と、①愛称②その

意図③会員番号④〒住所⑤氏名⑥電話番号⑦会報の感想、を記入。1通に複数の愛称応募も結構です。

- ◆応募締め切り:事務局あて、10月20日(土)
- ◆記念品:採用者1名ならびに佳作(若干名)の方に記念品を差し上げます。
- ◆新愛称は、新年号から採用予定です。なお、新愛称の使用権は当友の会に帰属します。

| 投 | 稿 | 募 | 集 |

◆…友の会では会員皆さんの声を、活動や会報にできるだけ反映していきたいと考えています。皆さんのご意見、ご希望のほか、江戸東京博物館や友の会に関する随筆や詩歌、写真、イラストなどのご投稿を募集しています。お気軽に事務局までお送りください。



次号は11月下旬発行予定です。

江戸東京博物館友の会会報 第3号

発行日=平成13年(2001)10月1日

発行=江戸東京博物館友の会事務局

130-0015 東京都墨田区横綱1-4-1

Tel. 03-3626-9910

編集・制作=友の会広報部会